

31H 加賀 美桜 32H 堂前 更紗 32H 松本 一沙  
 34H 田幡 颯太 34H 上野 翔矢 36H 鈴木 彩花

## ■課題

- ・ 県内への移入者が都市と似た生活を求めている
- ・ 七尾市の知名度が低いため、移入者が増加しない

## ■解決策

- ・ 交通の便を改善する
- ・ 自動運転実験車を導入することで、地域の知名度を上げる。

## ■地域の現状

○ 少子高齢化に伴い、運転者不足や公共交通機関の運営コストの重い負担などから交通の便が悪いと考えられる

### 【移住者の意見】

- ・ 交通の便が悪い。 ・ 車が必須な街。
- ・ 駅前の商業施設からお店がどんどん撤退して、買い物をするのに遠くに行く必要がある。

<https://www.e10map.com/ishikawa>

## ■自動車技術の現状

○ 国内自動運転車の実証実験の分布（図2）



<https://www.mlit.go.jp/common/001217867.pdf>

図2 国内自動運転の実証実験

- ・ 全国的に自動運転の実証実験が行われている
- ・ 多数の自動車会社が自動運転車を研究・制作  
→ 需要があることが分かる  
→ 世間の関心が高いため継続性も期待できる

○ 成功例 ～茨城県 境町～

- ・ 自治体が3台購入 5年5億2千万円で契約
- ・ 6人乗り
- ・ 3台を11人で運用（オペレーター+保安要員）
- ◎ 保安要員が乗っていて安心できる
- ◎ バスの便が増えた
- ◎ 性能が高く普通のバスと変わらない
- 車体のコストは高くないが、人件費がかかる

## ■バスの現状

○ バスの本数が少ない  
人口の似た地域との比較（図1）

	人口	本数
七尾市	51,632	24
富山県 南砺市	50,040	54+

図1 人口とバスの本数の比較

### [共通点]

どの便も約2時間おきに1本運行

### [相違点]

- ・ 本数の量 ← 七尾市は少ない
- ・ 移動できる範囲 ← 七尾市は狭い
- ・ 南砺市のバスは、一本で広域まで行くことができる  
→ 乗り継ぎの必要がない

ishikawa.pdf (kokudo.or.jp) 施設・交通/七尾市 (nanao.lg.jp)

0000075887.pdf (city.nanto.toyama.jp) toyama.pdf (kokudo.or.jp)

## ■解決への具体的内容

- 「七尾市バージョン」の小型自動実験バスルートを導入する
  - ・ 市が小型実験バスを購入し、運営をする
  - ・ 利用者が多いと予想される線を運行する（例）駅—病院 駅—モール
  - ・ 1日に本数を決めて運行する（例）1日8便 10:00~16:00
  - ・ 平日は小型自動運転バスとして運行し、土日祝日は観光客向けに予約制のみ有料で貸し出す事で利益を増加させていく
    - ① 車体の珍しさを生かすため
    - ② 自動運転ナビでスムーズな観光を実現させるため（予約することで、事前にプランを入力しておける）

## ■効果

- ・ バスの運行数が増える
  - 交通の便が改善される
  - 暮らしやすいまちにつながる
- ・ 自動運転バスを運行する
  - PRになる
  - 知名度が上がる
  - 移入者が増える